

カルメル

霊性センターニュース



2025年12月 425号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
京都	2 5
名古屋	2 7
諸所の企画案内	2 8
通信深読お申込みのご案内	3 2
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 3
あとがき	3 4

心の泉



宇治カルメル会 黙想の家前（聖母子像）



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十三章 敬虔な人は、聖体の秘跡によってキリストと一致することを切に望まなければならない

1 子

《主よ、私はあなただけを見だし、あなたに私の心を何もかも打ち明けます。人に無視されても私の魂の望むがままにあなたを味わい、どんな被造物にも動かされず、あなたに好意を示す力を誰が与えてくれるでしょうか？愛する者が愛する相手と話し、友人が友人と親しく話すように、私に話しかけてくださるのは誰でしょうか？

私が切に乞い願い、望むことは、あなたと一致し、被造物から心を離し、聖体拝領と、ミサを捧げることによって、ますます天のことや永遠のことを味わうようになることです。主なる神よ、いつ私はまったくあなたに吸いこまれて一致し、自分のことを完全に忘れるようになるのでしょうか？あなたは私のなかに、私はあなたのなかに、一つのものとなりますように。

2 あなたは隠れておられる神

主よ、あなたは「最も愛する者、皆のなかでひときわ目立っていた」(雅歌 5・10)のです。私の心は、生涯日々あなたのうちに休むことを望んでいます。あなたは平和を与えてくださる私の王、私はあなたのなかに最高の平安と真の休息を見いだします。それ以外のところには、労苦と悲慘があるだけです。あなたは実に、「隠れた神」(イザヤ 45・15)であり、悪人と交わらず、謙虚で純真な人にだけお話しになります。

主よ、あなたのみこころはなんと柔和なのでしょう。あなたは、子どもにその甘美さを示すために、「天からの糧をもって養ってくださいます」(知恵 16・20)。

神は人間の身近におられるが、どれほど偉大な民でも、あなたが弟子たちに対してなさるほど、人間に近づく神々を持つ民はいない(申命記 4・7 参照)。実にあなたは、人の心を天に向かわせ、日々の糧を与え、ご自分を弟子たちに配られます。

3 どのようにお返しをしたらいいのか？

この世でキリストを知る人々ほど栄光ある存在があるのでしょうか？復活のおんからだをもって人々を養うために、この世に来られるほど愛されている魂があるのでしょうか？言い尽くしがたい恵みよ！驚くべきへいくだりよ！人間に与えられた無限の愛！

これほどの恵み、これほどの愛のために、私は何を主にお返ししたらいいのでしょうか？私の心をすべて主に与え、親しく一致する以外に、神に喜ばれる捧げものはありません。私の魂がまったく神と一致すれば、私の心は喜びで満たされるでしょう。その時、主は、「あなたが私と共にいたいと望むなら、私もあなたと共にいよう」と言われるでしょう。その時、私は答えましょう、「主よ、私と共にいてください。私はそれを切に望みます。私の心があなたと一致すること、これが私の唯一の望みです」と。》



救い主を待ち望む心と呼びさましてください！



この子は泣いています
ごらん かれはあなたを呼んでいます！
大声でわたしに呼びかけて
何を わたしに求めるのですか
「かれを愛しなさい かれはあなたを愛し
あなたのために 寒さにふるえているから
ごらん この子はあなたを呼んでいます！
～アヴィラの聖テレサ～

おん父は一つのことばをいわれた。

これがおん子であった。

おん父は永遠の沈黙のうちに 常にこのことばをのべられた。

そして、それを人は 沈黙のうちに、聞くべきである。

～十字架の聖ヨハネ～

ここまで小さくなられた神を

わたしは 恐れることはできません。

わたしは愛する 幼いイエスを！

～リジューの聖テレーズ～

おん子は 今度 馬小屋にではなく

わたしたちの心に お生まれになります。

おん子こそ インマヌエル、

「わたしたちと共におられる神」なのですから。

～三位一体の聖エリザベット～

イエス・キリストのうちに溢れでる命は

わたしたち一人ひとりのうちにおいて、

そしてキリストの神秘体においても 溢れでているのです。

～福者マリー・エウジェヌ神父, ocd～

わたしたちは 信仰のまなざしのもとにキリストを通してのみ、

わたしたちもおん父と和解できる事実を

あらためてかみしめ、感謝したいものです。

よいご降誕の祝日をお迎えください！

8日 無原罪の聖母
25日 主の降誕
28日 聖家族

伊従信子(ノートル・ダム・ド・ヴィ)

フランシスコ教皇の言葉⑳

わたしたちの神は受肉の神。
不正義を上から力を取り去るのではなく、
下から愛によって取り去ってくださる方なのです。

「わたしたちの神は受肉の神」という言葉から、何を思い浮かべますか。人間とは異なる超越的絶対的な神が、私たちと同じ人間となるということでしょうか。あるいは「神が人となる」ことによって、神は私たちと「共にある神」だということが主張されているのでしょうか。

たしかに、「受肉の神」という言葉に、これらの意味が含まれていることは間違いありません。けれども教皇様は、この後、不正義を問題にされていますから、その意味では、神は、この世の不正義を取り去り、真の正義を実現するために、人となられたということになります。

その時、神は、「上から力で」、一方的に不正義を取り去るのではなく、「下から愛によって」取り去るのだということです。愛においては、愛する者と愛される者とのパーソナルな関係が前提されています。問答無用ではなく、愛の内に不正義が除去されるために、神の独り子イエスは、ベツレヘムの家畜小屋にお生まれになったのではないのでしょうか。

この世では力づくで問題を解決しようと、腕力とお金、武力と経済力が幅を利かせています。ウクライナ戦争、ガザ地区での紛争などは、そのいい例でしょう。それに対し、何もできない小さな赤ちゃんイエスは、私たちに愛を呼び起こすのです。皆の心に自然とやさしい思いがわき上がってきます。キリストによって、真の平和と喜びが私たちの間にもたらされるのです。

(P. 九里)

P.S. 「フランシスコ教皇の言葉」(①～⑱)は、カルメル会のHPの「霊性センターニュース」に掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（207）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

こぼれ話シリーズの導入(4)

この本のタイトル、十字架の聖ヨハネのこぼれ話（原題は『十字架の聖ヨハネの小さき花 人間的なるものの深み』）は、すでに私たちの意図を物語ってくれています。私たちは、単に彼の人間性を取り扱うのではなく、彼の内にある人間的なるものの深みを取り扱っていくからです。すでにお伝えしたように彼の船へ乗り込むことを、私たちはもっとも単純で、もっともまっすぐで、もっとも短い手段で達成したいと思っています。それは、彼の小さき花（こぼれ話）の花びらを摘みながら、また彼が言ったように諸徳の花に「触れながら」「ゆすりながら」進むことです。すべては、「聖フランシスコの小さき花」という本で皆様もご存じの通りです。

その本の各ページには、聖フランシスコと最も親密であった何人かの仲間たちが想起した、聖人の生涯に関する、無垢で繊細な、また温かで意味深い、魅力と喜びに満ちた光景が拾い集められています。

十字架のヨハネの場合も、彼の生涯における、心にしみる、優しい、ドラマチックな逸話がたくさんあります。これらは私たちに彼の全体像を描き出してくれますが、当然、彼の人間性や聖性において、彼を知り、評価する上で、おそらく、人格に関する多くの心理テストや心理学的なたくさんの検査以上に役に立つことでしょう。

聖人をよく知っていた人々が、彼について語ってくれることを、私は望みました。それによって、より良い証人たちを、かなりの「特別な」人々と与えられた聴衆は、自分たちと私たちと一緒に本を書くことになるでしょう。こうして、それらの頁を歩き回るヨハネ修士は、かつてないほど生き生きとした人間となって、私たちの生活圏から脱け出ることなく、かつてないほど「生ける炎の霊」として立ち現れてくることでしょう。（続く）

P. 九里 訳

待降節 第2主日〈A〉

(マタイ3：1－12)

「悔い改めよ。天の國は近づいた」

待降節における洗礼者ヨハネの姿は、マタイ福音書における大きなテーマです。彼はすばらしい人です、ヨおおのハネの態度は、自己を与え、自己を忘れたものです。道を作る役割を認め、後から来る方のために準備をしています。

「主の道をととのえよ。」はマタイ福音の中心的なメッセージです。ヨハネは、神の声でした。彼のメッセージは脅かしではなく、同時に約束もありました。彼は、人々を「蝮の子ら」とよび、悔い改めなければ滅びると忠告し、彼らを根本的な回心へ招きます。ギリシャ語の“Metanoein”は、聖書間連の語句では、神の王国を認め、入るのに必要な「精神と心」を意味しています。

ヨハネは強い使命を持っていました。彼は大胆に、公に悪を非難しました、どのような形で出会っても、いつ、どこで出会っても。他の福音書に不法な結婚をした王を咎める箇所を読みます。儀式偏重により人々が私欲を利用したファリサイ派とサドカイ派を黙らせました。ヨハネは、正義を求め、人々に神への義務を思いださせました。彼らのこの世の小さい快樂と憧れより上のものを求めさせました。ヨハネは神のメッセージそのものでした。彼の預言的な声は、神からきて、人間の善に向かいました。彼のメッセージは主への道を準備するやり方をあらわしています。

ヨハネのメッセージは、私たちに回心により新しい生活スタイルをとるように求めています。「心の変化」です。回心は、神の愛を分かち合う神の招待への答えです。しかし、痛悔の回心は、1日、1週間、1月、かかります。これは長いプロセスです。これこそが、キリスト者の召命の印です。私たちは、私たちに愛を示すために独り子を送ってくださった神のみ旨に併せて自分自身を変えていくように求められているのです。

(Sr. Paulina)

待降節 第3主日 (A)

(マタイ 11 : 2 - 11)

【そのとき、ヨハネは牢の中で、キリストのなされたことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

【み言葉を黙想する】

待降節第3主日は、「喜びの主日」がテーマになっています。十字架の聖ヨハネを12月14日にお祝いしますが、彼の作品に『カルメル山登攀』があります。その中の第三部で、靈魂を導く手段として、「喜び」について述べています。それは段階的に次のように述べます。

①一時的な富 ②自然的富 ③感覺的富 ④道德的富 ⑤超自然的富 ⑥靈的富：靈的よろこび
富を獲得する喜びについて導きますが、その喜びが空しくなる時のダメージについても述べています。すなわち、すべてはこの世の喜びです。さて、その先にある靈的喜びについて新しい段階に入ります。それは花婿キリストとの出会いにおける喜びであり、そのために教会の典礼とキリストとの出会いの場を整えるように努力するように(準備するように)、導きます。もう一つの導きは、キリストの靈による導きに委ねる(受動的に)導きです。これは直接にキリスト(神の靈)が靈魂を導く受動的信仰の暗夜といわれるものです。この場合は、靈魂はキリストの靈の前で謙遜の姿勢が培われます(神を畏れ敬う態度)。その導くキリストの靈は<英知・啓示の光>であり、この光によって誇り高き靈魂は打ち砕かれるでしょう。靈魂の知性にとって暗闇であり、ここで導く神の属性は「光」と共に「愛の炎」となります。洗礼によって頂いた「信仰による靈の初穂」は、「光」となり「炎」となって、「信仰の灯」として導きます。これは神の恵みであり、この「信仰の灯」を灯しながら歩むのが「信仰生活」です。

その「信仰の灯」が私たちの心をキリストの心に変容してください。ふさわしくキリストの心に変容されると、花婿キリストとの出会いの喜びに入れていただくのです。

わたしたちの信仰の喜びは、イエス様の述べた「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」という、イエス・キリストの恵みによって神の子の自由さをもって生活するよう導きます。キリストと同じ神の子の自由に生活することこそ、心の喜びがあふれるでしょう。世の中とは別の世界が、心の中から始まる生活、「信仰生活」の灯が灯しながら、新たなキリストとの出会いの準備をしたいと思います。

(松田浩一神父 OCD)

待降節 第4主日（A）

（マタイ 1 : 18 - 24）

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる」

待降節第4主日で掲げる中心的なテーマは「インマヌエル」です。この名は「神は我々と共におられる」という意味です。聖マタイは、ユダヤ人のキリスト者に対し、イエスがダビデ家出身であり、彼らが待ち望んでいたユダヤのメシアだと説得しようとしていました。イエスは救い主であり、神の約束と契約を成就されます。イエスはまさに「インマヌエル、神は我々と共におられる」お方です。これがキリスト教の信仰の核心です。神はすでに私たちのただ中におられ、我々と共にいらっしゃいます。

では神は本当に我々と共にいるのでしょうか？もし共におられるなら、その愛と現存は、私たちの生活、態度、そして他者への心遣いを通して示されねばなりません。イエスは、父である神が私たちを愛しておられるという福音を告げるために来られました。罪人である私たちのもとに来られた神のおとずれこそ、クリスマスに私たちが分かち合う喜びです。

また、聖母マリアと聖ヨセフにも心に留めましょう。お二人は、救い主をこの世に与える神の計画に耳を傾け、信頼し、従い、忠実に受け入れました。イエスは、神の愛、いつくしみ、あわれみの美しさを分かち合うために来られたのです。あと一週間後にはクリスマスを迎えます。神がイエスにおいて私たちを受け入れ、愛し、喜びを与えてくださったように、私たちも互いに受け入れ、愛し、喜びを与え合いましょう。貧しく困窮する方々に手を差し伸べるたび、私たちは神のみ業を続けます。兄弟姉妹の中にインマヌエルを見出すたび、私たちは正しい心でイエスの誕生の意味を理解するのです。

このクリスマス、そして毎日、愛・いつくしみ・思いやり・ゆるしで心を満たし幼子イエスをお迎えする準備をしましょう。皆様が恵みと希望に満ちたクリスマスを迎えられるよう、心よりお祈り申し上げます。

(Sr. Paulina)

聖 家 族

(マタイ 2 : 13-15、19-23)

今日、私たちは聖家族、父なる神のみことば、神であり人となってこの世に来られたイエス、その神のみことばを胎に宿され、お産みになられたマリア、マリアと結婚してイエスの養父となられたヨセフ。このイエス、マリア、ヨセフの聖家族をお祝いします。

福音書では、イエスがお生まれになった後の話が語られ、夢でお告げを受けて自国へ帰って行った占星術の学者達の話から始まります。そしてヨセフに主の天使が夢で現れ、ヘロデ王が幼子イエスを探して殺そうとしているため、エジプトに逃げる様にと言われ、ヨセフは夜のうちにイエスとマリアを連れてエジプトに向かうことになります。

救い主の誕生の喜びの余韻に浸る間も束の間、苦難の中でエジプトへの旅路を歩んでゆかれました。今まで生活をしていた土地を離れて異国の地に着き、そこで生活をする困難や苦労はどれほど大変なことだったのでしょう。そしてヘロデ王が死去すると再び主の天使がヨセフに現れて、今度はイスラエルの地に行きなさいと告げます。ヨセフは新たな土地での生活の基盤を捨てて、イスラエルへと帰ってゆくことになります。

このようにして戻った場所での生活も困難を極めたことでしょう。エジプトに逃げて相当な期間、離れていた訳ですから、以前住んでいた家や土地には、もうすでに他人が住んでいたのではないかということは想像に難くありません。神の子の家族、イエス、マリア、ヨセフの聖家族は、その生活の初めの頃から困難や苦難な中にあった様です。

その様な状況にあった聖家族ですが、そこには忠実に神に従う姿が見られます。神に従うことによって神に導かれ、預言者によって語られていたことが実現してゆきます。そして神の救いのご計画がイエスを通して実現してゆき、ヨセフは神への従順によって神が導いて下さる出来事に与っていくことになります。

聖家族は自分たちを導かれる神に従い、また神のみ使いに従うことで神に従いました。この聖家族の姿を眺め、倣いましょう。私たちも苦難の状況にあっても、困難な状況にあっても、聖家族のように神に忠実に従ってゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2025年11月8日

2025年「聖年」の讃歌：一つの声、一つのコミュニティー



ローマの跣足カルメル修道会の専門共同体である、宣教神学院（セミナリウム・ミッションム）は、世界中の跣足カルメル会修道会の修道士に対する修士号および博士号レベルでの、継続的な養成を目的とし、総長顧問会により指定されています。

そこでは、跣足カルメル修道会の国際霊性神学院であるテレジアヌムの一部として共有された霊性の実践、異文化間対話、高度な学術研究を中心に、バランスの取れたカルメル会的修道生活様式を奨励しています。

この宣教神学校は、リジューの聖テレーズに捧げられており、聖女の列聖100周年記念と2025年教会の「聖年」を祝して、この度 教会に”国際聖年の讃歌”を捧げました。この讃歌はドン・ジョルジョ・ピエロ・カブラス氏による作

詞、跣足カルメル修道会司祭ジェノ・グレゴリー・スアマ神父により作曲され、世界24カ国から集まった20の跣足カルメル修道会 管区出身の31人の司祭たちによって演奏されました。

このビデオはすべてテレジアヌムで撮影され、ミシェル・リヴィエール神父により編集されました。跣足カルメル修道会での共同体生活の多様な側面を浮き彫りにしたこのアニメーション ビデオの芸術的演出は、長上であるイグナティウス・クンヌンプラトゥ・ポール神父と経理担当のジョエモン・オラットゥプラトゥ神父が担当しました。

動画はYouTubeでご覧いただけます：

https://www.youtube.com/watch?v=fLD72f_wDA&list=RDfLD72f_wDA

(訳：小宮山延子)



いのちの言葉 12月

地の果てまで、すべての人がわたしたちの神の救いを仰ぐ。¹

(イザヤ書 52・10)

1

イスラエルの民はバビロンへ捕囚され、すべてを失いました。自分たちの土地、王、そしてかつてエジプトから彼らを導き出した神を礼拝する神殿さえも失ってしまったのです。

ところが、その絶望のただ中で、一人の預言者の驚くべき声が響き渡ります。――故郷へ帰る時が来たのだ、と。神は再び力強く手を差し伸べ、砂漠を越えて彼らをエルサレムへと導き戻す、と。そして地上のすべての民は、この驚くべき出来事を目の当たりにするだろう、と。

地の果てまで、すべての人がわたしたちの神の救いを仰ぐ。

今日の私たちの現実も、不安に満ちています。ニュースは憂慮すべき話題で溢れ、仕事や尊厳を失い、健康や安全を脅かされる人が大勢います。戦争や、気候変動がもたらす貧困は、若者たちの未来をさらに脅かしています。土地も、平和も、自由も奪われる人々がいます。未来への展望が見えず、息が詰まるような悲劇が、地球規模で繰り広げられています。これまで自分たちのものだと思っていたものが崩れていくとき、一体だれが私たちを守ってくれるのでしょうか。希望はもはやどこにもないように思える――しかし、この預言者の力強い声は、今を生きる私たちにも向けられているのです。

地の果てまで、すべての人がわたしたちの神の救いを仰ぐ。

この言葉が示しているのは、個人の人生にも、人類の歴史にも、神が働いておられるということです。そして、救いの計画のしるしに目を開くようにと、私たちを招いているのです。実際、神はもう働かれています。教育に情熱を注ぐ教師、誠実に仕事に向き合う経営者、公平に務める公務員、互いへの忠誠を守る夫婦、誰かを抱きしめる子ども、優しく寄り添う看護師、辛抱強いお祖母さん――そして、犯罪行為に平和的に抗議する男女の勇気。開かれた共同体の中に、すでに神が働いておられるのです。

地の果てまで、すべての人がわたしたちの神の救いを仰ぐ。

クリスマスが近づいています。無垢な幼子イエスの姿は、忍耐強く、慈しみ深い神が人類の歴史の中にいつも寄り添っておられることを思い起こさせます。そして私たちは、世の流れに逆らうように見える選択をすることで、そのことを証しすることができます。

「……私たちの世界では、より強い者、狡猾な者、不道德な者が幅をきかせ、まるであらゆるものが物質主義とエゴイズムに絡め取られてしまったかのようです。このような世の中に対して、与えられる応えは隣人愛です。隣人を愛することこそ、世を癒す薬です。……それは、神聖な熱のように放たれ、広がり、人と人、集団と集団の関係に浸透し、少しずつ社会を変えていくのです。」²

イスラエルの民がそうであったように、私たちにとっても、今こそ歩みを始める時でしょう。若者や高齢者、貧しい人や移民、失業者やホームレスの人々、病気の人、受刑者――ケアと隣人愛を必要としている人たちのもとへ歩み寄ること。私たちの間におられる神の、柔和で、具体的な愛の証しを待っている人たちに向けて、一歩踏み出す絶好の機会なのです。

今日、私たちがこの希望のメッセージを運んでいくべき場所は、国境のような地理的な境界――そこは時に壁となり、痛ましい戦いの最前線にもなりますが、それだけではありません。文化の違いがあるところにも、人が抱えるさまざまな“心の壁”があるところにも、この希望は届けられなければなりません。また、攻撃的な雰囲気や孤独、社会から取り残されたように感じる思いを乗り越えるために、若い人たちが多く集うデジタルのコミュニティが、大きな支えとなることもあります。

コンゴの詩人アンリ・ブクローはこう書いています。

「……ああ、神聖なる希望よ！ 風が絶望のすすり泣きをあげるその中に、最も美しい愛の詩の、最初の言葉が刻まれている。そして明日、それは希望となる。」³

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

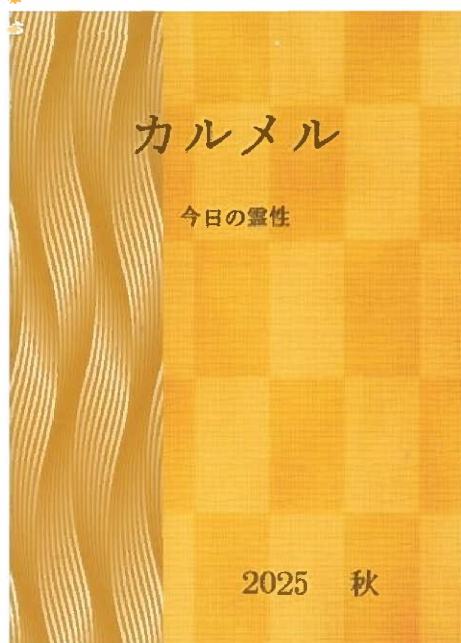
連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² キアラ・ルービック、1985年5月「いのちの言葉」より

³ 「Poeti Africani Anti-Apartheid（反アパルトヘイトのアフリカ詩人たち）」第一巻、デラルコ、ミラノ、2003年



2025年 秋号 No.398

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(3)》
神の愛に希望を置く

—十字架の聖ヨハネの教え(1) 松田浩一

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(11) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道

—日々神との親しさに呼ばれて 伊従信子

教皇フランシスコ様

「我らが愛する教皇」 ポーリン・フェルナンデス

風に吹かれて再び(13)—塩、この不思議

原 造

霊的研究会講義録(29)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」

「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から

—二人のテレジアの霊的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類

—巡礼、シノドス、ニカヤ公会議、新回勅
の連続性

サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く

志村 武

信仰生活の再構築

和田 誠

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

十字架の聖ヨハネ理解のための 待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（ある）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

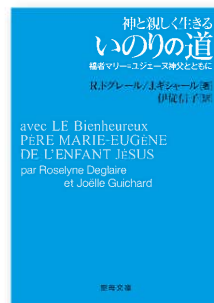
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



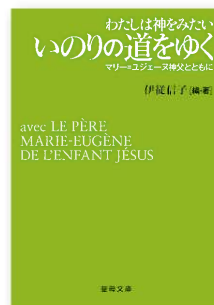
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

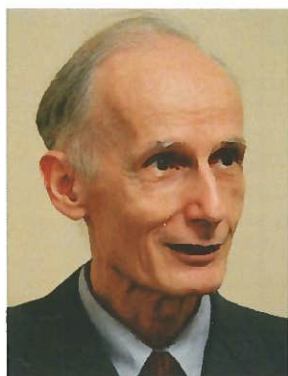
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教の精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院（黙想）**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2025 年

5月24日(土) ～ 25日(日)

7月5日(土) ～ 6日(日)

9月6日(土) ～ 7日(日)

11月29日(土) ～ 30日(日)

2026 年

1月17日(土) ～ 18日(日)

3月7日(土) ～ 8日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日 18時～最終日朝食) カルメル会士

2025 年 8月16日(土) ～ 25日(月)

2025 年 12月26日(金) ～ 2026 年 1月4日(日)

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2025 年 12 月～2026 年 3 月)

【一般のための黙想】1泊2日(土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

変更 ~~12/6—7~~→**12/20—21**
2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】(土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2026 年 変更 ~~1/17~~→**2/7** 3/14

【水曜黙想会】(午前10時～午後4時) 中川博道神父

12/17
2026 年 1/21 3/11

【カルメルの霊性】(土日) 午後5時から 中川博道神父

十字架のヨハネ 12/13—14

【祈りの学校】 総合編(木) 午前10時から 松田浩一神父

変更 ~~12/11~~→**12/4** 追加 2026 年 1/15 2/5 3/5

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》(火) 午前10時から 松田浩一神父

12/2 追加 2026 年 1/27 2/24 3/10

【奉献生活者の黙想】(午後5時～午前9時) 一般参加可

12月27日(土) 夕食～1月5日(月) 朝食 中川博道神父

2026 年
3月18日(水) 夕食～27日(金) 朝食 中川博道神父

ーその他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたしますー

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。

またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。

浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが

浴衣やブラシ・歯ブラシ等はありませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【静修の集い】

2025 年 12 月 6 日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：今泉健神父（カルメル修道会）

テーマ：聖テレーズ ―暗闇の中での信頼―

スケジュール：講話①、ご聖体顯示、昼食、
講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）。
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ「希望の巡礼者」

「主の恵みの年を告げ知らせるために」

(ルカ4章19節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月 9日 「聖年」とは－新しい始まりの希望：聖年を迎える
- 2月13日 「希望はわたしたちを欺くことはありません」－教皇フランシスコの呼びかけ
- 3月13日 「希望の巡礼者」－イエス様とともに歩む
- 4月10日 「希望」と信仰－希望はイエスのご復活に基づく信仰の実り
- 5月 8日 「希望」と愛－希望は神の愛に基づいています
- 6月12日 「希望」と愛の業－希望は愛の業によって現れる
- 7月10日 「希望」と祈り－希望は祈りによって養われる
- 8月 休み
- 9月11日 「希望」と平和－主は与えてくださる平和における希望
- 10月 9日 「希望」と福音宣教－世界に希望を届ける、教会の使命
- 11月13日 「希望」と神の国－神の国の到来を待ち望む
- 12月11日 「希望」と喜び－神の訪れはもたらす贈り物。

- ・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186



サダナ瞑想 †東洋の瞑想とキリスト者の祈り†

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
広島 リピーターの会	2025 年 1/10(土)9:00～ 12日(月・祝) 16:00 ※通いも可能です	同上	広島市内施設	来間(くるま) 裕美子 ※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避けてください sadhana79878@gmail.com
フォローアップ	1/18(日) 9:30～17:00	同上	シャルトル聖パウロ 会 九段修道院 (千代田区九段北)	同上
名古屋ダイアリー	1/31(土)9:30～ 2/1(日)18:00 2/7(土)9:30～ 8(日)18:00 ※両方の週に継続 参加が必要	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 TEL: 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
サダナⅡ	2/19(木)17:30～ 23(月・祝)16:00	同上	都内施設	来間(くるま) 裕美子※
サダナⅠ	3/19(木)17:30～ 22(日)16:00	同上	都内施設	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

- 入門 C への参加=入門 A または入門 B を終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加=サダナⅠを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。現在は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017 年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在、私たち一人ひとりを支えておられる、憐れみ深い神の前に自分を置き、沈黙の内に祈っていきます。



場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 1 月 22 日(木) 13:30～15:30

2026 年度スケジュール

1 月 22 日、3 月 26 日、5 月 28 日、7 月 23 日、9 月 24 日、11 月 26 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『霊性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル霊性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル霊性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル霊性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

霊性センター 12月号 あとがき

2024 年降誕祭から始まった聖年「希望の巡礼者」の最後の月が、待降節と共に始まります。

「天の父よ、
あなたは、わたしたちの兄弟、御子イエスにおいて信仰を与え、
聖霊によってわたしたちの心に愛の炎を燃え上がらせてくださいました。
この信仰と愛によって、
神の国の訪れを待ち望む、祝福に満ちた希望が、
わたしたちのうちに呼び覚まされますように。」

このように、祈り続けてきた教会と共に、確かな希望のうちにイエスをお迎えする「待降節」となっていきますように。毎年、待降節第1主日は、主の到来を前に「目を覚ましていなさい」（マタイ 24. 42、マルコ 13. 37、ルカ 21. 36）と呼びかけます。

すでに「わたしは世の終わりまでいつもあなた方と共にいる」力強く呼びかけるイエスの息づかいに注意深くこの時を過ごしたいと思います。

よき降誕祭をお迎えください。m. a. n

